


救急車の適正利用に努めましょう！

新型コロナウイルス感染症の変異株による感染拡大が続いており、全国的に救急車の出動件数が増加しているそうです。加えて、病院の受け入れ体制のひっ迫により救急搬送困難案件も増加していることより、救急車を本当に必要とする人のために、皆で救急車の適正利用を意識したいところですね！



救急車？
病院？

様子を見る？

救急車を呼ぶか迷った時は？

短縮
番号 **#7119**

または地域ごとに定められた電話番号



こんな時はお電話ください！

- ◆こんな症状で救急車を呼んでいいのかな...
- ◆具合が悪いけどすぐに病院に行った方がいいのかな...
- ◆手遅れになったらどうしよう...
- ◆近所の目が気になるから、救急車を呼ぶのは控えようかな...

救急安心センター事業（#7119）ってナニ？

急なケガや病気をした時、救急車を呼んだ方が良いか、今すぐに病院に行った方が良いか判断に迷うことがあると思います。そんな時、専門家からアドバイスを受けることができる電話相談窓口が救急安心センター事業（#7119）です。寄せられた相談は、電話口で医師、看護師、相談員がお話を伺い、病気やケガの症状を把握して、救急車を呼んだ方が良いか、急いで病院を受診した方が良いか、受診できる医療機関はどこか等を案内します。救急安心センター事業（#7119）を使うことで、緊急性が高い時には救急車の要請を、そうでない時は症状等に応じたタイミングで医療機関を受診することを支援します。こうすることで、緊急性の高い傷病者の元にいち早く救急隊が駆けつけることができるようになります。**救急安心センター事業（#7119）は、地域の限られた医療資源の一つである救急車を有効に活用する一翼を担っています。**



救急搬送の現状はどうなっているの？

➤ **救急出動件数は増加、現場到着時間も延伸。搬送者の半数は入院の必要がない「軽症」**



平成30年に救急搬送された人の約半数が「軽症（入院加療が必要ないもの）」となっています。この「軽症」の中には、骨折などにより自分で病院に行けなかった人が救急車で病院に行き、通院治療は必要だが入院する必要はない場合なども含まれており、「軽症」の全てが不要不急の救急要請というわけではありません。
しかし、中には「指先を紙で切った」「病院でもらった薬がなくなった」や、「どこの病院に行けばよいか分からない」「便利だから」などのように、救急車を安易に利用するといったケースもあるようです。

※東京消防庁管内の令和2年中の救急出動件数は72万965件。一日平均1,970件、頻度は44秒に1回の割合。

#7119の利用方法

☎ #7119

オペレーターや自動音声により応答

希望に応じ選択

緊急電話相談

- ◆ 医師・看護師・相談員が対応
- ➡ 病気やケガの状態を把握
- ➡ 緊急性について判断

緊急性

なし

医療機関案内

- ➡ 受診可能な医療機関を案内

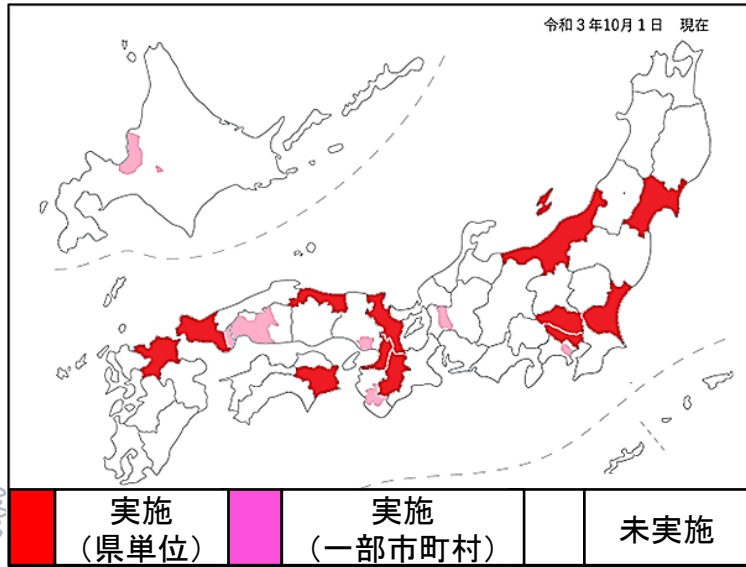
あり

迅速な救急出動



#7119の実施工リア

令和3年10月1日 現在



◆ お住まいの地域をご確認のうえ、ご相談ください。（#7119以外の番号で救急電話相談等を行っている地域があります）
 ※ 消防庁では、#7119の全国普及を進めています。



全国版救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」

総務省消防庁「Q助」案内サイト
https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9_6/kyukyu_app.html



急な病気やけがをした時、症状の緊急度を素早く判断するために、消防庁がウェブ版とスマホ版で提供しているアプリ。当てはまる症状を画面上で選択していくと、緊急度の目安がわかり、必要な対応が表示されます。緊急度が高いと判定された場合は、アプリから119番に電話できます。また、緊急度が低い場合は、受診できる医療機関や受診科目、移動手段（タクシーなど）などの情報を、アプリから検索できますので、症状がひどくなる前に医療機関を受診しましょう。

いざ急病人やけが人を目の前にして、誰もが冷静に対処できるとは限りません。緊急時にも必要な対応ができるよう、ぜひ日頃お使いのスマホにインストールしておいてください。

赤 緊急度 いますぐに119番！

黄 緊急度 できるだけ早めに病院へ！

緑 緊急度 緊急性は低いですが病院へ！（夜間なら翌日でもOK）

引き続き注意して様子を見る

◆ 救急安心

センター事業（#7119）

を導入した自治体を実施した利用者に対するアンケートの結果では、**約9割**の利用者が「役に立った」と感じています。



～「#7119」を利用した弊社社員の声～

中学生の娘が就寝前に突然胸の痛みを訴えて号泣。先ほどまでは元気だったので救急車を呼ぶか迷った際に、#7119で救急安心センターへ電話。看護師さんが電話口に出てください状況の説明したところ、病院に行くようにとのこと。夜間でありましたが、電話口の看護師さんが病院に直接受診手配までしてください、すぐにマイカーで娘を病院へ連れて行き、スムーズに受診することができました。通話中も娘の顔色に変化がないか注視するようにと適切なアドバイスをくださり、とても安心感があり助かりました。

弊社は損害保険会社8社、生命保険会社8社、少額短期保険会社1社を取扱い、お客様の企業経営から個人のライフプランまで総合的なリスクマネジメントをご提案いたします。現在弊社以外でご契約の保険の証券診断も承りますので、お気軽にご相談ください！

弊社では日頃の営業活動にお客様からの声を活用させていただきたく、弊社ホームページ内に“ひとことカード”のサイトを開設いたしましたので、忌憚ないご意見をお届けくださいますようお願いいたします。
 ★“ひとことカード”のサイト→



◆ 弊社ホームページで「TOKYO CENTRAL NEWS」のバックナンバーを掲載しておりますので、是非ともご参照ください。